

# 決算特別委員会 審査報告書

令和3年11月29日

三木市議会

決算特別委員会を代表いたしまして、委員会の審査経過及び結果についてご報告申し上げます。

本委員会は、去る第366回三木市議会定例会において、令和2年度三木市各会計の決算審査のため設置され、私ども8名の委員が10月7日から11月2日まで、延べ5日間にわたり慎重に審査を行いました。

審査の結果、国民健康保険特別会計及び後期高齢者医療事業特別会計の2会計の決算については賛成多数で、一般会計、介護保険特別会計、学校給食事業特別会計、水道事業会計及び下水道事業会計の5会計の決算については全員一致をもって、これを認定すべきものと決定した次第であります。

以下、審査の過程において各委員からありました主な意見、要望について申し上げます。

はじめに、総合政策部関係について申し上げます。

まず、テレビ会議システムの導入についてであります。

市の会議等をオンラインで行うため、機材を整備し、運用を始められていますが、今後、限られた予算・人材の中で、質の高い市民サービスの提供を続けるために、市の業務全般の効率化がさらに求められますので、積極的に活用されたいのであります。

次に、SNSを活用した情報発信についてであります。

ツイッターや動画配信などで市政情報等を発信されていますが、情報は全世界に届くものですので、市民や市にゆかりのある方だけでなく、市外の方にも市の良さや特色のある施策など、市の魅力を知ってもらえるような内容についても検討されたいのであります。

次に、移住・定住促進事業についてであります。

実績件数が見込みよりも減少していますが、人口減少に歯止めをかける市独自の施策として有効なものですので、積極的に周知に努め、引き続き充実した内容とされたいのであります。

次に、総務部関係について申し上げます。

職員研修についてであります。

コロナ禍で派遣研修等への参加が減少していますが、市民の皆様により良い行政サービスを提供できるよう、職員の資質や能力を高めるために、社会情勢等の変化に応じた内容の研修を計画し、実施されたいのであります。

次に、市民生活部関係について申し上げます。

まず、そ族昆虫駆除事業についてであります。

スズメバチの駆除のみが対象であるにも関わらず、従来の事業名を変更されておらず、市民にとって事業内容がわかりにくいので、市民目線に立ち、実態に即した事業名への見直しを検討されたいのであります。

次に、ごみの分別についてであります。

家庭ごみの分別方法は、ごみカレンダー等を通して定着していますが、一升瓶はリユースが可能であるにも関わらず、空きびんリサイクルとして回収されているものが多いので、環境への負荷がより小さい一升瓶のリユースについて、販売店の協力を得ながら市民への周知に努められたいのであります。

次に、健康福祉部関係について申し上げます。

まず、敬老事業についてであります。

補助金交付要綱に基づき、高齢者に記念品等を配布することも補助金の交付の対象とされていますが、一人一人の高齢者に喜んでいただけるよう記念品の選定について弾力的な運用を図るとともに、本来は地域の住民が集まって長寿を祝うことに意義があると思われまますので、今後、コロナ禍における事業のあり方についても検討されたいのであります。

次に、介護保険サービスの利用についてであります。

要介護認定を受けながらも、介護サービスを利用されていない方がいますので、接する機会を捉えて声掛けしたり、地域包括支援センターやデイサービスセンターへの情報提供をするなど、必要な支援が行き届くようきめ細やかな対応をされたいのであります。

次に、産業振興部関係について申し上げます。

まず、狩猟免許等取得支援補助事業についてであります。

令和2年度の補助金申請件数15件すべてが免許の更新で、新規狩猟免許取得者が一人もいませんでしたが、柵だけで有害鳥獣の被害を防ぐのは限界がありますので、市役所でのポスター掲示や農会長会への働きかけなどを引き続き努められるとともに、区長協議会等様々なルートを使い、新規の狩猟免許取得者が増えるような方策を検討されたいのであります。

次に、三木金物ニューハードウェア賞認定事業についてであります。

市が毎年、認定製品のPR用パンフレットを全国の金物取扱店へ送付し、認定製品の生産数量、出荷額等について定期的に検証されてい

ますが、今後も全国の金物取扱店から認定製品が期待されるよう、三木金物のさらなる普及に向けて尽力されたいのであります。

次に、別所ゆめ街道活用事業についてであります。

別所ゆめ街道の飲食物産館の利用者数が伸び悩んでいますが、市民の憩いの場として、また、市外からも多くの人を呼び込めるよう、遊歩道やサイクリングコースを活用したイベントを開催するなど工夫を凝らされたいのであります。

次に、都市整備部関係について申し上げます。

まず、ガーデニング学習講座についてであります。

花のあるまちづくりを推進するため、地域の花づくり活動の担い手となる人材の育成を目的としたガーデニング学習講座等を開催されていますが、講座等を修了された方が、各地域で身に付けた知識と経験を生かせるよう、市内で花づくり活動を行っている団体や制度等を紹介されたいのであります。

次に、北播磨総合医療センターへの通院等に係る神戸電鉄利用補助金についてであります。

北播磨総合医療センターへの通院等の交通手段として、神戸電鉄粟生線を利用された市民を対象に運賃の一部を補助していますが、北播磨総合医療センターでの補助金交付業務に関する委託料が、補助金交付額に比べて高額であることから、補助金交付の手法等について精査されたいのであります。

次に、市営住宅の家賃滞納者についてであります。

市営住宅の家賃等の収納状況は、前年度に比べて徴収率が上昇し、滞納解消への取り組みの成果が出ていますが、さらなる推進のため、戸別訪問の際には、直接の担当者だけでなく、部内で協力体制をとり、早朝や夜間等、在宅時に訪問する機会を増やすことで、滞納者の生活実態を把握し、家賃滞納の解消に繋げられたいのであります。

次に、上下水道部関係について申し上げます。

まず、水道事業会計の経営戦略についてであります。

新型コロナウイルス感染症対策として水道料金を半年間減免したことにより、純損益は赤字となったものの、未処分利益剰余金を充てることで経営状況への影響は小さいとのことですが、今後も人口減少等により、給水の需要の減少が予想されることに加え、施設の老朽化対策が必要となることから、経営戦略を定期的に見直し、健全経営の維持に努められたいのであります。

次に、下水道の普及促進についてであります。

公共下水道及び農業集落排水施設の計画区域について、生活排水等の適正な処理や使用料収入の確保のため、引き続き未接続世帯に対する普及啓発に努めるとともに、計画区域外の地域については、くみ取りや単独処理浄化槽の世帯に合併処理浄化槽への転換を促すことで、水洗化率及び生活排水処理率のさらなる向上に努められたいのであります。

次に、消防本部関係について申し上げます。

消防団の訓練についてであります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、消防団の訓練回数が減少し、また、訓練規模も縮小されていますが、消防団は地域に密着した消防防災のリーダーとして、市民の安心と安全を守るという重要な役割を担うことから、従来の訓練に加え、オンラインでの研修や動画の視聴など、新たな訓練の手法の導入を検討されたいのであります。

次に、教育委員会関係について申し上げます。

まず、保育教諭等の確保策についてであります。

保育士人材確保補助金について、市内の教育・保育施設の人材確保に有効な事業でありながら、例年、予算額に対して執行実績が低い状況ですので、積極的に活用し、喫緊の課題である保育教諭等の不足の解消につなげられたいのであります。

次に、学校施設等の整備についてであります。

トイレの洋式化について、校舎内から優先的に整備されていますが、利用頻度が低い校舎外や体育館のトイレについても、災害時に避難所として開設された際には、高齢者など幅広い年代の方が利用されることとなりますので、計画的に整備されたいのであります。

次に、学校給食についてであります。

学校給食の主食には米飯やパンなどが提供されていますが、全国的に米離れが進む中、主食用米は在庫を抱え、価格も下がっている状況ですので、食育の観点からも市内産の米を積極的に取り入れ、米を食べることで市内農家を応援いただきたいのであります。

以上が各委員から出された主な意見、要望であります。

なお、全体として、説明資料として作成された歳入歳出事項別明細書の一部に落丁があるとともに、主要施策実績報告書においても誤った記載がありましたが、いずれも決算の認定を判断するための重要な

書類ですので、過去の資料と照合するなど、再発防止に向けてチェック体制の見直しを図りたいのであります。

また、審査中、当該所管部署の説明資料に関する委員からの質疑に対して、所管外である旨の答弁がありましたが、資料として提出されている以上、その所管部署において説明責任を果たされたいのであります。

以上、令和2年度の各会計決算の審査内容をご報告申し上げましたが、議員各位には本委員会の決定どおりご賛同賜りますようお願い申し上げますとともに、当局におかれましては、これらの意見、その他委員会で出された意見を今後の施策に十分反映されるよう要望いたしまして、決算審査報告を終わります。